

青梅市文化財ニュース

第195号

平成21年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

おしゃもじさま

おしゃもじさまは、医者にもなかなかかかれず良い薬もなかった昔、そのご利益を伝え聞いた人々が、病気の平癒を祈願したり、願掛けをした神様です。関東の村々では、畑の中や街道脇などに、小祠が建てられ信仰されてきました。ご神体は、多くが石神であり、石には神霊が宿るとされ子孫繁栄や豊穰を祈願した古代信仰が、長年の間に、シャクジン(石神)からシャクシ(杓子)となり、ついにはおしゃもじさまと呼ばれるようになったと考えられています。また、セキジン(石神)がセキ(咳)に通じるため、おしゃもじさまは、咳の神様として信仰されるようになりました。やがて、風邪や病気の平癒、さらに子育て、安産なども祈願されるようになってきました。子供が百日咳などの病気になると、おしゃもじさまに奉納してあるおしゃもじを借りてきて、子供の枕元に置いたり、そのしゃもじでご飯を盛って食べさせるなどしました。快癒すると、お礼に新しいおしゃもじを納めるのが慣わしでした。

青梅市内でも、おしゃもじさまと呼ばれ信仰されてきた神のいくつかが判りましたので記してみます。

師岡一丁目のおしゃもじさま

妙光院の西方、勝沼城への登り口にある小さな祠、「石神井神社」は通称、おしゃもじさまと呼ばれ、石棒が安置され絵馬やおしゃもじが奉納されています。この石棒は、近くの「石神ノ井」という井戸を掘った時に出土した縄文時代の遺物で、それをご神体として祀ったのが「石神井神社」ですが、人々には風邪を治して貰うおしゃもじさまとして信仰されたようです。また、師岡在住の人(88歳の男性)の話では、湧水の水を目につけておしゃもじさまを拝むと、眼病も治ったそうです。

畑中一丁目のおしゃもじさま

地元で、おしゃもじさまと呼ばれた祠は、昔は街道筋にありましたが、道路の付け替えにより民家の敷地内に移されました。60歳代の人(女性)の話では、今から30年位前まで

は小さな祠があり、直径 10～15m ほどの丸石がご神体で、先代がおしゃもじさまといって朝晩お参りしていたということです。祠もご神体も今はなくなっていますが、近くの 80 歳の人(男性)は、百日咳の時におしゃもじさまに拝みに通ったということです。

青梅市立総合病院西のおしゃもじさま

現在、三差路の角地に石神社^{いしがみじゃ}はありますが、昔はもう少し東にあったようです。平成 6 年河辺老荘大学郷土史研究部会発行の『河辺郷土史資料集』には、河辺町三丁目の中央にある坂は、登りきった所にあった石神社・おしゃもじさまに通じる道であることから、「石神坂・おしゃもじ坂」とあります。また、この石神社には説明板があり、それによると『西分神社の枝宮で、現在地よりやや東、字石神平^{いしがみだいら}に鎮座。本社の杓子をうけ門庁にかかげれば、よく疫病を守護するといひ伝う。・・略・・祭神は道反乃命^{ちがえしのみこと}で、安産の神・子どもの神であり・・略・・病魔を防ぎ、喉の病や風邪の神として信仰され、社に杓子を供えその杓子で患部をなでると快癒すると伝えられている』ということです。

現在わかっている青梅市内のおしゃもじさまは、前述の 3 か所です。医学が発達し、その恩恵を十分に受けられる時代になり、おしゃもじさまの信仰は、お年寄りの記憶だけになりつつあります。市内で石神が祀られている所は他にも数箇所ありますが、そこでのおしゃもじさまの信仰は現在どのようになっているのでしょうか。各地のおしゃもじさまに関する情報がありましたら、お教えてください。

(文責 三好 ゆき江)